

# F-3 : 研究プロジェクトのマネージメント

開催日時・会場 9月18日(金曜日) 15:30 - 17:00 会場B

## 大学の強みとなるブランド研究をのばすには！

皆さんの大学や研究機関には、大なり小なり、強みや特徴となるブランド研究分野が存在するのではないのでしょうか。そんな研究分野も、時代とともに世代が変わり、新たに「●●研究2.0」というような、強みをさらにのばす研究マネジメントが必要となってきます。本セッションでは、この方策について、研究資金、異分野連携、人材育成、学生教育との連携、デジタル化等の観点から考察します。

具体的には、文部科学省による科学技術に関する政策動向を伺った上で、複数の大学のURAから大学の強みや、これまで取り組んできた、あるいは今後取り組みたい研究マネジメント事例を紹介してもらいます。その後のパネルディスカッションでは、文部科学省政策の新たな流れも含め、参加者全員で「URAが取り組む研究マネジメント」の今後のあり方を議論していきたいと思えます。

今回、統合を控えた大阪府立大学と大阪市立大学、東京都が設置する唯一の総合大学である東京都立大学、小規模ながらも多様な学問が1キャンパスに集う埼玉大学におけるURAが、それぞれ特徴ある環境下での取組事例を紹介します。

## セッション担当者



石田 貴美子: 同志社大学 研究開発推進機構  
リサーチ・アドミニストレーター

(株)村田製作所、シンガポール大手法律事務所を経て2006年私立大学で研究関連業務に従事。2013年度同志社大学にてURA組織の構築に寄与、研究プロジェクト構築、外部資金支援、研究戦略等に従事。当セッションでは各大学の強みをのばすマネジメントにおけるURAの役割について考えたいとおもいます。

## 登壇者



横井 理夫：文部科学省  
科学技術・学術政策局企画評価課 課長

平成6年文部省入省。大学技術移転推進室長として、URAを育成・確保するシステム整備の事業を担当。その後、在中国日本国大使館教育参事官、内閣府参事官(科学技術・イノベーション担当)を経て、現在、科学技術に関する制度一般に関する基本的な政策の企画・立案・推進や科学技術に関する内外の動向調査の分析等を担当。現在の科学技術政策について情報提供します。研究面での強みを活かす方策について、皆さんと一緒に議論できることを楽しみにしています。



関山 泰司：大阪市立大学  
学術・研究推進本部URAセンター URA

京都大学薬学部卒。博士(学術)。製薬会社で新規事業として立ち上げた天然抗菌剤事業と共に大手化学会社に転籍後、約12年間、食品関連事業に携わり、2016年7月より現職。現在はバイオ・ライフサイエンス系の研究を中心に産学連携、外部資金獲得、学際研究創成等に従事しています。今回のセッションでは主にヘルスケア分野を中心とした学際研究創成とベンチャー支援について紹介いたします。



西田 泰士：大阪府立大学  
研究推進本部URAセンター URA

岡山大学工学部卒。弁理士、RTTP(国際認定・技術移転プロフェッショナル)。企業の半導体技術開発部門、知的財産部門を経て、2014年4月より現職。学内の研究シーズを基に「新しい価値」を創造すべく、積極的なマッチング活動を行っており、異分野融合のアプローチについてお話いたします。



十津川 剛：東京都立大学 総合研究推進機構  
上席URA

早稲田大学教育学部卒。広島大学理学研究科博士課程修了、博士(理学)。NJ州立ラトガース大学、三菱化学生命科学研究所、九州大学医学研究院にて細胞生物学研究に従事。その後、JST国際科学技術部、東京農工大学URAを経て2017年から首都大学東京主幹URA。現在東京都立大学URA専門課長/上席URA。学内の研究力向上を目指した学内ファンドのスキームについてお話します。

## 登壇者



玉井 克幸：埼玉大学 URAオフィス  
主任URA 特定准教授

理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター(CDB) 博士研究員(2002～2008年)、大阪大学 産学連携本部イノベーション部 特任助教(2008～2012年)、名古屋大学 学術研究・産学官連携推進本部 URA(2012～2019年)、科学技術振興機構(JST) 戦略研究推進部 さきがけ領域担当(2017～2019年 出向)。2019年3月より現職。中小規模大学・地方大学において、強みの創出にURAがどのように関わられるかを議論したいと思います。



丸山 浩平(司会)：早稲田大学  
リサーチイノベーションセンター  
研究戦略部門 教授

JUKI(株)にて産業用機械のR&D、技術戦略企画、新規事業開発等を担当した後、早稲田大学でバイオセンシング研究に従事。2009年から同大学研究戦略センター(URA組織)の立上げに参画し、複数の大学で全学的な研究力強化などURA活動に従事。JST・CRDS特任フェロー兼務。専門は技術戦略企画、計測学など。自大学の差別化に向けて、ハイリスクな取組みを模索するURAの事例発表に、乞うご期待！



田中 有理  
(ラップアップ担当) : 東京都立大学 総合研究推進機構 URA

九州工業大学、中央大学にそれぞれURAとして勤務、2018年から東京都立大学(旧:首都大学東京)URA。国立大学、私立大学、公立大学のそれぞれの大学において求められるURAの機能を諸先輩方に学びつつ、日々スキルアップを目指しています。「きらりと光るこつぶ大学」の強みや取り組みについて、参加者の皆さんで共有し、URAとしてできること一緒に考えていければと思います。